

カリタスの家だより 連載 第29回

■ 沖縄の「チムグルサ」

東京カリタスの家の私たちの大きな業務のひとつに面接があります。その大事な基本的姿勢には①傾聴（言葉だけではなく表情や身振りにも気を配ることも大切です）②受容（行動や感情をありのままを受け止める）③共感（相手の感情を心から理解することで、言葉だけで言っても相手に見抜かれてしまうことも多いです）④感情の明確化（相手の感情や考えを正しく把握し、要約などをします）⑤支持⑥自己決定の尊重などがありますが、ここではその中の「共感」について考えてみたいと思います。

「共感」については、私たちも日頃から感性を磨き、相手の気持ちになって物事が考えられるようにする必要があります。たとえば相手がつらい表情をしているとき、相手が「つらい思いをしているのだ」ということがわかるだけでなく、自分もつらい感情を持つことなのです。しかし相手の感情に同一化してしまい、あまりに一緒に悲しみ、感情的になり過ぎることは避けなければなりません。共感には冷静さや客観的な態度や判断も必要なのです。

私が好きな言葉があります。沖縄の「チムグルサ」です。肝、はらわた。それがきりきり痛んで、その人のことをほっておけない気持ちです。「共感」についてとても的確に表していると思います。2010年の後半には私の肝がキリキリ痛んで、涙があふれる事件がありました。

ひとつは9月の事件で男子中学生が都内の公園で寝泊まりしている耳が不自由なホームレスの男性にコンビニから熱湯をもってきて、彼にかけて大火傷を負わせた事件で、中学生は「反応が面白かった。やりすぎてしまった。」と話したそうです。1週間前から石なども投げたり、洗剤をかけたりにしていたらしいです。ホームレスや障がい者への偏見や差別が背景にあり、教育の問題の重要性を考えると胸がつまります。

次には10月の群馬の小6女子生徒の自殺です。給食なども一人で食べていたとのこと、小さなところが孤独に耐えられなかったのです。自室でカーテンレールにマフラーをかけて首をつって死んでいるのを、母親が見つけたそうで、マフラーは、彼女が母親にプレゼントするため、編んでいたものだという。「6年生になってから学校に10回以上、いじめがなくなるよう相談したが、具体的な対策は示されなかった」と父親が述べています。また11月には札幌で中2女子生徒がいじめのためマンションから

飛び降り自殺しました。このような本人・遺族の計り知れない痛みや苦しみを考えると私の肝も痛みます。

私たちは「共感」の輪を広げて、あきらめずに、お互いを思いやり、生き心地の良い社会を目指していきたいものです。

(岩田鐵夫)